

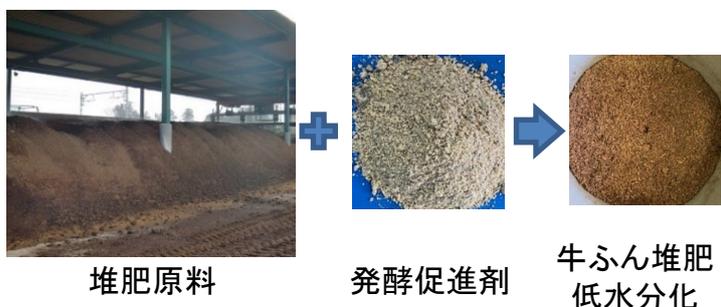
実証課題名	牛ふんを用いた指定混合肥料の広域流通と耕畜連携体系の確立と実証(R5~R7)
構成員	農研機構(畜産研究部門、九州沖縄農業研究センター)、朝日アグリア(株)、全農物流(株)、JA全農飼料畜産中央研究所、新潟県、(株)アグリライフ、新潟食料農業大学
ペレット堆肥製造施設	朝日アグリア(株)(埼玉県児玉郡神川町)

【背景・課題】

我が国の乳用牛・肉用牛由来の排せつ物は全体の約3割を占めているが、その堆肥は水分含量が多いため広域流通が進んでいない。一方、牛ふん堆肥は土壌改良材として耕種農家から利用の要望は高く、化成肥料を混合した指定混合肥料にも調製しやすいことから、造粒加工することで広域流通等の問題を解決できる。そこで、耕種農家が使用しやすい牛ふん堆肥を用いた指定混合粒状肥料の品質改善を図り、粒状肥料製品を試作し、肥効の検証の後製品化を行い、広域流通を展開する。

【堆肥調製法の改良による低水分化】

堆肥の低水分化を促進する副資材と通気の効率化により低水分の牛ふん堆肥の調製



目標

- 造粒加工に適した水分50%の牛ふん堆肥生産のため、食品廃棄物系由来資材の活用と通気システムの改良による発酵促進技術を開発

【ペレット加工製品の高品質化】

低水分化した牛ふん堆肥を原料として高品質ペレットを生産

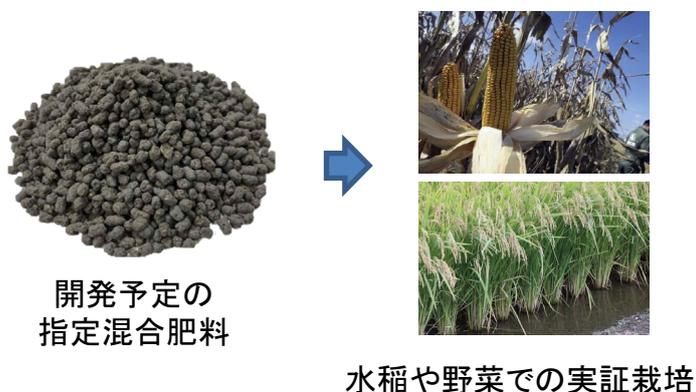


目標

- 食品廃棄物系由来資材の混合により、機械散布適性の高い牛ふんペレット製造技術を確立し、2t/h以上の生産能力を達成

【ペレット堆肥を用いた栽培試験】

水稲や野菜等に対するペレット堆肥の肥料特性を明らかにし、肥料製造工程にフィードバック



目標

- 牛ふん堆肥ペレットを用いた施肥体系において、慣行の施肥体系と同等の収量を確保

【ペレット堆肥の流通効率化】

ペレット堆肥の効率的広域流通モデルの確立・改良



目標

- ペレット堆肥運搬の帰り荷として、ロールベール形状の飼料用米、稲WCS等を運搬し、関東甲信越地域内での効率が良い流通条件を解明

【問い合わせ先】

実証代表

農研機構 畜産研究部門

視察等の受入について

農研機構畜産研究部門 田中 章浩 Tel: 029-838-8673
(e-mail: atanaka@naro.affrc.go.jp)